

令和6年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) よかわ認定こども園

観点	①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
項目	内 容
園の現状や 取組、課題	○一人一人の子どもや保護者の心に寄り添い、個々に応じた対応に努めている。 ○保育生活のなかで、自分自身を表現できる場を作り、認められることや、褒めてもらえることで心が満たされ、自己肯定感や自尊感情を高められるような取組をしている。 ○個々の育ちの現状や今後の見通しをもちながら、一人一人に合ったかわりを全職員で共有し、主体的に活動できる意欲を育てていくことが課題である。
目標	○主体的に遊び、心豊かにたくましく生きる力を培うことができるよう、保育者との信頼関係を大切にし、発達に応じた環境を整える。 ○異年齢保育をとおして、愛情を感じ、情緒の安定と基本的信頼感を得られるようにするとともに、社会性や協調性、思いやりや譲り合いの気持ちを育む。
目標達成 に向けた 具体的な 取組内容	○自らかかわりたい!遊びたい!と自発的に思えるような環境を整えながら子どもの意欲を引き出し、子どもたち自身で遊びを展開し深めることができるよう、5領域・3本の柱・10の姿を念頭に置き教育・保育を行う。 ○朝のわくわくタイム(全クラスでの戸外遊び)やチャレンジタイム(3～5歳児クラスでの運動遊び)をとおして、子ども同士が交流する機会を取り入れて遊ぶ。 ○セタコンサートや親子で遊ぼう等の行事を振り返ることで互いに認め合う場をもつ。
成果	○年齢や発達に応じた環境を子どもの様子に合わせてその都度変えてきたことで様々な活動に対して「やってみよう!」「やればできる!」と前向きな気持ちが高まってきている。 ○わくわくタイムや運動会・再現遊び・散歩等をとおして異年齢児と触れ合う機会が増えることで互いの信頼関係が深まり、憧れる思いも強くなるなか、困ったときは年上児を頼り聞きに行ったり、教えてもらったりする主体的な姿が見られるようになり協調性も育まれ心の育ちがみえてきた。 ○行事の取り組みに関して全園児の様子を共有しながらその都度職員間で話し合い、子どもたちがより主体的に活動できる内容に見直してきたことで、個々の楽しみや集中できる遊びを見つけることができた。引き続き一人一人の発達や育ちに応じたかわりや環境を整えていきたい。
評価	朝のわくわくタイム(全クラスでの戸外遊び)は、脳科学的にも子どもたちの精神の落ち着きという面で効果が高く、今後もぜひ継続してほしい取り組みである。また、子どもたちの年齢や発達を意識して、柔軟に「環境構成」を工夫し、子どもたちの積極性や「やる気」を上手く引き出している。また、異年齢児が触れ合う機会を意図的に増やし、年少児にとっては憧れ、年長児にとっては思いやりの心を育む機会としている。今後も子どもたち一人ひとりの発達特性に応じた取り組みを継続されることを期待している。